

現代社会学部公開講座

ロハスが創る新しい暮らし・新しい市場 —持続可能な社会へ—

LOHAS (Lifestyles Of Health And Sustainability)、すなわち健康と環境を志向するライフスタイルが今や世界的に大きな潮流となっている。本公開講座では、ロハスを日本に初めて紹介したピーターセン氏と、自然産業の活性化に貢献されている嘉田良平氏を招き、「持続可能な社会」についてご講演いただき理解を深めるとともに、今後の潮流についてディスカッションした。

前半の講演、および後半のパネルディスカッションでは130名を超える聴衆から多数の意見や質問があがり、熱のこもった質疑応答が繰り広げられた。

公開講座プログラム

- 開催日時 2006年10月21日(土) 13:30~16:00
- 場所 京都女子大学C校舎501教室
- 講演 ピーター・D・ピーターセン ((株)イースクエア代表)
「LOHASに暮らす」
嘉田 良平 (アマタ(株)持続可能経済研究所顧問)
「自然産業の世紀」
- パネルディスカッション
「LOHASへの期待」
パネリスト
ピーター・D・ピーターセン ((株)イースクエア代表)
嘉田 良平 (アマタ(株)持続可能経済研究所顧問)
コメンテーター
槇村 久子 (京都女子大学現代社会学部教授)
- 企画・総司会
蒲生 孝治 (京都女子大学現代社会学部教授)

概要報告

「LOHASに暮らす」

ピーター・D・ピーダーセン氏

ピーター氏は1967年デンマーク生まれ。コペンハーゲン大学文化人類学部卒業。1998年8月に独立して「未来創研」を設立し、未来学を活動テーマに、特に「自然環境」「企業家の先見力」「創造性・指導力」などについて講演、執筆、コンサルティングに従事されている。2000年9月に株式会社イースクエアを設立し、代表取締役社長に就任、現在に至っている。著書・共著書には、『拝啓ニッポン殿』（近代文芸社、1995年）、『ビジョンなき国のビジョンある人々』（海象社、2003年）、『LOHASに暮らす』（ビジネス社、2006年）など多数ある。

講演では、今までの経済活動は大きな価値を生み出してきただけでも環境破壊や労働問題など歪みも作った。5年ほど前、本来あるべき経済活動の在り方を模索していた時に出会ったのがLOHASである。LOHAS（健康と環境を志向するライフスタイル）はいま、日本における最もホットな新しいライフスタイルコンセプトであると同時に、グリーン市場を牽引するマーケティングの考え方でもある。「サステナブル＝持続可能」な暮らしを、従来の暮らしより魅力的に表現することによって生活者の心をつかみ、同時にビジネスの発展性と、人々の健康や自然環境の持続可能性をどう実現することができるのか。ロハス的な価値観、ライフスタイルはこれからこそ大きなトレンドになる。企業のマーケティング戦略として、いかに消費者に「マイメリット感」、納得感を与えることができるかが成

功の秘訣である。今年と去年に行った「日本のLOHAS消費者動向調査」の結果をベースに、車や住宅などの具体例を交え、日本におけるLOHASの潮流をお話いただいた。

「自然産業の世紀」

嘉田 良平氏

嘉田氏は1949年大阪府生まれ。1971年京都大学農学部卒業。同大学大学院を経て米国ウイスコンシン大学大学院に留学されPh.D.を取得。1995年京都大学教授、2001年農林水産省農林水産政策研究所政策研究調整官、2004年4月UFJ総合研究所顧問を経て現在に至っている。著書・共著書には、『自然産業の世紀』（創森社、2006年）、『食品の安全性を考える』（日本放送出版協会、2004年）、『農政の転換』（有斐閣、1996年）、『環境保全と持続的農業』（家の光協会、1990年）など多数ある。

講演では、本来ならもっとも自然環境と調和し、共存すべき産業であるはずの農林水産業の持続可能性が、いま大きく失われようとしている。土、水、そして生物多様性など、農林水産業が依拠する根源的な自然資源が破壊されつつある中、こうした自然資源をいかに健全な状態に管理していくかが問われている。今後のわが国の食料問題を展望するためには、環境の視点だけではなく、経済や社会の視点からも持続可能性について考えることが重要だ。このような自然資源の持続的な利用に基づく経済活動を「自然産業」と定義している。全国の農山漁村で地域の人々とともに自然産業を育みたい、新しい産品を創造し、

それを求める人々に届けたい、そして、農山漁村の有する様々な価値や可能性を顕在化させていきたい。これが「自然産業」を軸とする私たちのチャレンジだ。食生活パターンの変化や輸入食料の増加とともに、わが国のフードシステムは大きな構造変化をとげてきた。地球環境問題がますます危惧される今日、これからの私たちの食生活、身の回りの自然環境、そして日本農業は一体どうなるのか。本

当に安全で健全な食料を確保するためには、何が必要なのか。世界の農業・食料資源の現状と見通しを概観したうえで、日本の食料安全保障の見通し、現代日本におけるフードシステムと食品産業界にとっての課題、とくに農林水産業の持続可能性と自然環境とのかかわりについてお話しいただいた。

(文責：蒲生孝治)



写真1 熱心に聞き入る聴衆



写真2 パネルディスカッション